

催吐リスク High(apr)

乳 A40+C500/d1/c21d

薬剤名	投与経路	投与量	希釈液	点滴時間(分)	投与日(day)
アプレピタント	内服	125	mg		1
			mg		
デキサメタゾン	注射	9.9	mg		1
グラニセトロン	注射	1	mg 生食	100 mL 30	1
ドキシソルビシン	40	mg/m ²	生食	100 mL 全開	1
エンドキサン	500	mg/m ²	生食	100 mL 全開	1
				mL	
				mL	
				mL	

内服薬

アプレピタント 80mg 分1 朝食後 day2,3

デキサメタゾン 8mg 分2 朝昼食後 day2,3,4

オランザピン 5mg 分1 眠前 day1,2,3,4,5

投与基準等

II. 投与基準 (例:白血球 $\geq 2000/\text{mm}^3$ 、好中球 $\geq 1000/\text{mm}^3$)白血球数 $\geq 4000/\mu\text{l}$ 好中球数 $\geq 2000/\mu\text{l}$ 血小板数 $\geq 100000/\mu\text{l}$ AST, ALT $< 1.5 \times \text{ULN}$ or 60IU/lビリルビン $< 1.5\text{mg/dl}$ クレアチニン $< 1.5\text{mg/dl}$ 過去に 250mg/m²以上のアンスラサイクリン系抗がん剤投与歴、NYHA2 度以上の心不全のある患者は禁忌

Ⅲ. 減量基準 (例: Grade3 以上の好中球減少時、次回より投与量を80%に減量)

好中球減少性発熱症、血小板減少症 grade 4、grade3 以上の非血液毒性(悪心嘔吐以外)を来した場合、次コース両薬剤共に以下の量に減量

ドキソルビシン 40→30mg/m²

シクロフォスファミド 500→400mg/m²

Ⅳ. 重大な副作用 (例:好中球減少 Grade3 以上37.5%)

グレード3 以上

白血球減少 21%

好中球減少症 26%

貧血 3%

好中球減少性発熱症 3%

悪心嘔吐 3%

粘膜炎 1%

添付参考資料(文献・ガイドライン・治験計画書・研究計画書)

Ann Oncol 2009; 20: 1210-1215